

教科	科目	学年	単位数
数学	文系数学演習Ⅰ	3年 (人文社会系)	4
使用教科書		副教材	
数学B（数研出版）		問題集：4 STEP「数学Ⅱ+B」（数研出版） 参考書：チャート式「基礎からの数学Ⅱ+B」（数研出版） 入試問題集を適宜購入する予定	

1. 学習到達目標

教科書の本文で取り上げられている「例・例題・応用例題・問・練習・問題」の問題とその類題を自力で解けるようにします。これらの問題は、応用問題を解くために必要な知識・公式・考え方を身に付ける問題であり、重要で典型的な問題です。これらの問題を解けるようにすることを通じて、応用問題・実力問題・総合問題など初見の問題も解けるようにして、大学入試問題に対する基礎力をつけることを目標とします。

また、これまでに学んできた「数学Ⅰ」「数学A」「数学Ⅱ」「数学B」「数学C」の総復習や総合問題を演習することで、大学入試問題を自力で解けるような力をつけていきます。更に重要で典型的な問題（教科書の応用例題～章末問題レベル）の解法の確認と定着を通じて、大学入試共通テスト型の問題や私立大学の入試問題をどのように解けばよいか、どのような答案を作成すればよいか、速く正確に解答するにはどうすればよいのかを判断する力を高めることが、この授業の目標です。

2. 評価の観点と方法

知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
数列、統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。また、大学入試問題を自力で解くための基礎知識を身に付けるようにする。 定期試験や、朝テスト、授業などにおける小テストの結果などを総合的に評価する。	事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力、離散的な変化の規則性に着目し、事象を数学的に表現し考察する力、確率分布や標本分布の性質に着目し、母集団の傾向を推測し判断したり、標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力を養う。 その後、定期試験、授業などにおける小テストなどを総合的に評価する。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。 授業態度、課題への取り組み、振り返り状況などを総合的に評価する。

3. 学習内容（以下の表を参照）

	月	単元	授業内容	その他（授業で扱う確実に習得すべき内容）
1 学 期	4	オリエンテーション		「授業の受け方」「学習の方法」「課題」「朝テスト」「定期テスト」「成績のつけ方」などのガイダンス
	5	数 学 B 第 1 章 数列	数列とその和	①数列と一般項 ②等差数列 ③初項と公差を求める・等差中項 ④等差数列の和 ⑤倍数の和 ⑥等比数列 ⑦等比中項 ⑧等比数列の和 ⑨初項と公比を求める・部分和 ⑩ Σ ⑪ Σ の公式 ⑫一般項が和の形の数列 ⑬階差数列 ⑭ S_n から a_n を求める ⑮部分分数分解
			数 学 的 帰 納 法	⑯（等差）・（等比）型の数列の和 ⑰群数列 を確実に解けるようにします。 また、⑱等差数列の和の最大・最小 ⑲第 k 項が n と k の式 の問題も授業で扱います。
	6			①漸化式（等差型・等比型・階差型） ② $a_{n+1}=pa_n+q$ 型漸化式の解法 ③ $a_{n+1}=pa_n+q$ 型漸化式の演習 ④漸化式の応用（図形問題など） ⑤数学的帰納法（等式の証明） ⑥数学的帰納法（倍数の証明） ⑦数学的帰納法（不等式の証明） ⑧漸化式から一般項の推測→数学的帰納法で証明 の問題を確実に解けるようにします。また、置き換えによる漸化式の解法も授業で扱います。
	7	数 学 B 第 2 章 統計的な推測	確率分布	①確率変数と確率分布 ②確率変数の期待値 ③確率変数の分散と標準偏差 ④確率変数の変換 ⑤同時分布 ⑥確率変数の和の期待値 ⑦確率変数の独立 ⑧事象の独立と従属 ⑨独立な確率変数の積の期待値 ⑩独立な確率変数の和の分散 ⑪二項分布 ⑫二項分布の平均と分散 ⑬連続型確率変数とその分布 ⑭正規分布 ⑮標準正規分布 ⑯正規分布の応用 ⑰二項分布の正規分布による近似の問題を授業で扱います。
			統 計 的 な 推 測	①全数調査と標本調査、母集団分布 ②復元抽出・非復元抽出 ③標本平均の期待値と標準偏差 ④標本平均の分布と正規分布 ⑤大数の法則 ⑥母平均の推定 ⑦母比率の推定 ⑧仮説検定の問題を授業で扱います。
2 学 期 ・ 3 学 期				以後は、大学入試演習を行います。

4. その他（科目の特徴や学習の注意点など）

この授業では、“自ら考え”、“論理的”に“分析”し、これまで学んできたことを“統合”する力をつけることで、“問題解決能力”を養います。1つの解法で満足するのではなく様々なアプローチを考察、検討することが必要です。また、答案として書くだけでなく説明出来るようにすることも求められます。時間数の関係で教科書の一部内容を扱わない場合がありますが、授業で身に付けた問題解決能力を活用すれば必ず出来るはずです。

並行して、大学入試に向けた講座も行うので、積極的に参加してください。

※長期休暇の課題および一部朝テストでは、数学Ⅰ・Aと既習単元の数学Ⅱ・Cの復習も含めていきます。